

# 上宮寺通信

第三十四号

## 仏様の願いを聞く

新型コロナウイルスは終息するどころか変異株が出現し、予断を許さない状況が続きます。

聞くところによると、京都のある寺院では、毎日、新型コロナウイルス終息祈願法要を勤めているとのこと。仏様の力でなんとかしてほしいという気持ちもわからなくはありません。

新型コロナウイルスが終息してほしいという願いに限らず、私たちは大なり小なり、「ああなってほしい、こうなってほしい」と願いを持って生きています。

しかし、私たちの願いは叶うものもあれば叶わないものもあ

ります。願いが叶わなくとも、すぐに切り替えができればいいのですが、入試や恋愛など願いが叶わないとなかなか立ち直れないということもあります。

反対に願いが叶ったとしても、それで満足するということはありません。お金持ちになりたいと願っていても、どれだけのお金持ちになれば満足できるのか。また、逆にお金を手に入れることで今度は失うことに悩まされるということもあります。私たちの願いというのは「これでよし」ということはないので。

浄土真宗でも「願う」ことは大事です。浄土に生まれたいと願う、いわゆる「願生心」が仏道を求める基本だからです。

しかし、私たちに純粋な願生

心が起きるかどうかというのは疑問です。都合のいい時だけ仏様を大事にして、ふだんは「ほとけホットケ」になってしまいう。そういう心を親鸞聖人は自分の身を通して考えられました。

親鸞聖人は、本当の「願生心」は私の心から沸き起こったのではなく、仏様から呼び起こされたものだといわれます。

「浄土に生まれたいと願いなさい」という仏様の呼びかけに応じて、私の心に「浄土に生まれたい」という願いが生ずるといなのです。だからこそ、浄土真宗では仏様の願いを聞き取る「聞法」ということが大事にされてきたのです。

仏様の願いを聞き取り、我が

身のあり方を見つめさせていただく。そしてその願いに促されて仏道を求めさせていただく。その繰り返し「聞法」です。

新型コロナウイルスが終息するように仏様にすがるのでなく、終息に向かうには一人ひとりがどういう生き方をすべきか。そのことを自身に問うてほしいというのが、仏様の願いであり、呼びかけではないでしょうか。



お仏壇の本尊・阿弥陀仏の両脇にお軸がかかっていると思えます。それは名号であったり絵像であったりします。

名号ですと、向かって右に帰命尽十方無碍光如来(十字名号)、左に南無不可思議光如来(九字名号)となります。

絵像ですと、向かって右に親鸞聖人、左に蓮如上人となります。

名号は阿弥陀仏がすべての人を照らすはたらきをもった仏様であることをあらわし、絵像は阿弥陀仏の本願(お念仏)を私たちのところへ伝えてくださった浄土真宗の開祖(親鸞聖人)と中興の祖(蓮如上人)をあらわしています。

◆話題あれこれ

○「仏事のギモン？」の二回目はお脇掛けです。仏壇によつてはお脇掛けがないものもあると思います。また南無阿弥陀仏(六字名号)がかかっているところもあるかもしれません。一度、お仏壇をじっくりと見てみてはどうでしょうか。わからないことがありましたら、なんでも結構ですのでご相談ご質問ください。



○上宮寺八事墓地にお墓がある方には今年度の管理費納入のお願いを近々出させていただきます。またお墓でのお盆経は8月1日(日)朝になりますので、よろしくお願いいたします。

○緊急事態宣言が延長となりました。我慢の生活を強いられましたが、お互い感染予防に努めていきましよう。

○例年よりかなり早く梅雨入りしました。ジメジメ、ムシムシが明けると暑い夏がやってきます。暑さに負けない体力作りも今のうちから。体調には十分お気をつけてお過ごしください。

【雑感】

先日、真宗大谷派教誨師の研修会がありました。例年、京都の東本願寺を会場に全国の教誨師が集まり行われるのですが、今回はコロナ禍でオンラインでの研修となりました。名古屋から京都は日帰り圏内ですが、北海道や九州の方にとっては京都に行くだけでも大変。遠方の方たちにとってオンライン研修は好評だったようです。でも、画面を通しての研修はいまいち緊張感がなく、ついウトウトしてしまうことも。やっぱり現地に身を運ぶほうが充実感がありますね。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547